

本冊子の刊行にあたって

神戸大学男女共同参画推進室長・教授 坂本 千代

神戸大学・関西学院大学・兵庫県立大学は文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」の補助金を得て平成26年度から3年間、女性研究者支援のために様々な活動をしてまいりました。その中の一つに、教育経験の少ない若い教員のためのティーチングスキルアップ（TSU）セミナーがあります。従来のセミナーでは、教育方法に定評のある何人かの先生方を講師にお招きして、実用的な面白いお話をしていただくなど、大変有意義なセミナーを実施してまいりました。

このたび、これまでのセミナーを基にしつつも、さらにより多くの先生方の体験を基にしたティーチングについての技術やアドバイスを広く知ってもらおうという趣旨で本冊子を作ることになりました。いろいろ検討の結果、神戸大学大学教育研究推進室にも協力を仰ごう、アンケートだけでなくインタビューも入れよう、講義の際の声量について専門家にも寄稿していただくということになり、最終的にこのような形で刊行することになりました。

自分自身のことを振り返ってみると、30年近く前に神戸大学に教員として赴任した当時、私は大学教員としての「心構え」「教える技術」などをほとんど持っていませんでした。教科書の選定や授業の進め方などは、自分が学生の時に受けた授業を一生懸命再現することからはじめました。まさに試行錯誤の連続で、当時の学生さんには申し訳ない気持ちがあります。今から思うと、もっと合理的で効率的な授業のやり方があったのではないかと、ほかの教員にいろいろ聞いておけばよかったのにと思うことが多々あります。しかしながら、当時は身近に知り合いもほとんどなく、また、あまりに基本的なこと（板書の仕方、出席を取るタイミング、成績のつけ方・・・）をいまさら同僚に聞けないという雰囲気でもありました。それらについては、年月とともに私も何とか自分なりのやり方を見つけてきました。そして近年、職場に女性教員が多くなってきて、彼女たちと話をする機会が増えると、文系と理系ではかなり状況がちがうものの、新米の女性教員の方々は男性とはまた別の悩みがあることがわかりました。今回のアンケートはそのような声を拾い上げることも目的としました。

このささやかな冊子が若手のみならずベテランの教員や研究者の方々のTSUのお役に立てば、私たち編集者一同にとってこれほどうれしいことはありません。